

秋の譜

秋祭りの太鼓の音が村落の谷間に、轟き渡る季節である。いつもはその音を聞くこと心の豊かさを取り戻し、平和と安息のおもいに浸るのだが、ことしはすこし勝手がちがうようだ。

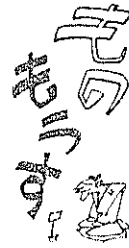
史上稀な台風十号の爪跡が残っているからだろうか。それもあつが、その爪跡に加えて、米の生産過剰、農業による農産物汚染と言つた、農業不信の音が甚に充ちているこの頃だから、なおさらである。

だが、考えてみると、これは農業に限ったことではない。都会では大気汚染で安心して空気も吸えないし、海と川の汚水、農作物汚染で、魚も野菜も安心して食べられない現況だし、更に輪禍で道路

も安心して歩けないような、時に地獄の様相を呈しはじめたこの頃である。

ルソーは自然に連れと叫んだが、日本が農業立国から工業立国へ鞍替えしたとたんに、日本列島

みなさんの声、意見をお寄せください。
 〓六百字以内〓



の腐蝕が始まったと見るほかはない。いまや日本は梅毒の第三期的症状に近いもので、セメントと鉄の生産にばかり力を入れ過ぎると、日本列島の中毒症状を重態化するばかりである。

だが、この日本にも不思議な現象がひとつある。この人間が生活するに最適な条件の中で、日本人の平均寿命が年々伸びて、戦前に較べて廿年も長生きしだしたことである。とすると、公害とか汚染とか、新聞テレビが毎日騒ぎ立てているのは、それを職業とする分析すきの学者や科学者達が、その職業の故に人騒がせの数字を並べ立てているのであって、実際人体への影響があるのかないのか、疑いたくもなる。とにかく、いまや日本人全体が公害ノイローゼに罹っていることだけは確かなよう

十市製夫

ちり

ちりと一口に言っても、自然にできるちりと、人工的なちりがあります。自然にできるちりは自然



残生の襪(ひだ)

清水易嘉

たどきなき午睡の夢の醒めぎはに、わが残生の襪な思ふ
 黒柿の写真の前にあぐらして死にたるのちも暴君である

語りつつかたみに心よせてゆく
 国道若き溪流に沿ふ
 月面を人の歩めるおどろきをまづ話したきもの死にてなし
 われの世に残る希みをしづかにも秋となりたる波音うたふ
 名をなすにあらず宝をつむにあらずわが晩年の誕生日、晴かへらざることと夜空の星屑と思のからむ庭にたたずむ

に消えますが、人工的なちりは中々消えずに、あつちこつちにみにくい姿を止めています。
 僕はいつもきれいな町を作りた
 と思うていますが、僕一人の力ではどうすることもできません。
 日本人一人一人が自覚して、自分の住む町や村をきれいにしなければいけないと思ひます。
 しかし現在の日本人は、自分さえよければ、他人はどうでもよいという考え方が大半を占めているように思ひます。或る学校の先生が、昼は生徒に川をきれいにしましように教えていて、夜はこつそり近くの川にちりを捨てていたら、高知新聞に批判の記事が出て

いましたが、僕の住んでいる所でもよく見かける風景です。またまた現場を通りかかっても注意することができません。何故なら、僕らの所は、南國市久枝ですが、以前は市役所から清掃車が来てくれていましたが、この頃は全然来てくれません。だから仕方なしに海や川の堤防付近に捨てているのだと僕は思っています。捨てたちりやごみはそのうちにくさって臭くなり、ハエが多く発生して大変不潔です。なぜこんなことがそのまま放りっぱなしになっているのでしょうか。市は清掃車をふやして定期的に巡回していつも清潔にしてほしいと思ひます。 愛甲賢一